

<福島県知事賞>

## みんなの幸せのために

福島市立北信中学校 三年 武田 まみ

私にはよく利用するサイトがある。五歳から十九歳までの子どもが利用できる、子どもが投稿した相談に、子どもが答えるサイトだ。そこには、多くの共感とともに、たくさんの発見がある。

そのたくさんの発見を経て私が気付いたことがある。それは、助けを必要としている人がたくさんいるということだ。母子家族で貧困や孤独さに悩む人、親からの虐待に苦しむ人、病気の親に代わって家庭を支える人、たくさんの人のSOSを見た。しかし、「警察に相談するのはどうですか」とか、「保護してもらってください」などという回答や「大丈夫ですよ」とか、「つらかったですね」とエールを送ることや寄りそうことしかできなかった。それがとても悔しかった。また、そのようなことはなんとなく聞いてはいたが、重大な問題だと今まで気付かなかったことも悔しかった。どうしたらこのような人たちを助けることができるのか、本当の力になれるのか、私はたくさん考えた。でも、私は所詮中学生で、できることには限りがあり、その上解決させるのは容易ではない。

大人になるまで待つしかないのか、そう考えていたときに、夏休みの宿題として、この「税に関する作文」を与えられた。作文の書く内容を考えるために税について調べていると、税は生活保護などの社会福祉にも役立っていると知った。ほんの小さなことだが、助けを求める人の力になれる方法の一つとして、税金を払うことがあると気がついた。

しかし、今の私の立場からすると、私は税金を払う側ではなく、使わせてもらって生きることができる側だ。たくさんの人から支えてもらって生きることができる。そのようなことも踏まえ、私が助けを求める人のためにできることは、たくさん学習したり、多くの社会問題について考えたりして、社会に貢献できる人物になれ

るように努力することだと思う。

現在の日本は、少子高齢化などによる社会保障費の増大や国民負担率の上昇といった様々な問題が起こっている。そして、このような問題は今に限らず、今後更に大きな問題になって私たちに降りかかってくると予想されている。誰かを助けることに限らず、私は今後の社会のためになれるように精いっぱい努力したい。そして、大人になって一円でも多く税金を払って助けを求める人たちのためになったり、社会のために貢献できるような人になりたい。